



コカリナ

コカリナは、元は「桜の木でできたオカリナ」と呼ばれ、東欧ハンガリーの露天で売られていた笛でした。1995年、コカリナ第一人者の黒坂黒太郎氏が日本に紹介。その後、黒坂黒太郎氏と日本の木工家とによって、様々な改良が加えられ、今のよう楽器として精度の高いコカリナが誕生しました。1998年の長野オリンピックの際には、オリンピック道路建設によって伐採されなければならなかった木からコカリナを製作、オリンピック会場で子ども達が演奏することによって、多くの人々に知られるところとなりました。また、広島の前爆で焼かれた木「被爆樹」からコカリナが作られ、その音色はサントリーホールのラジオCMとして放送され、2008年日本最大のCMコンクールで新聞社が選ぶ最高賞「ジャーナリスト賞」を受賞しました。今では、日本全国に、数万の愛好家がいると思われています。

小さい子どもからお年寄りまで気軽に楽しめるだけでなく、木の優しい音色のため、自然環境を守るシンボリックな楽器としても大きな注目を集めています。



Profile



くろさか くるたろう
黒坂 黒太郎 氏
(コカリナ)

1949年長野県上田市に生まれる。1995年、ハンガリーの民族楽器を楽器として精度の高いものに改良し、「コカリナ」と命名、コカリナ奏者としてN響メンバーと共演するなど幅広く活躍している。

中越地震で被災した山古志小学校の児童の詞に作曲した「ありがとう」を発表し、2006年中越地震被災地支援の活動で国土交通省より表彰。2009年開催の新潟国体では、その曲が開会式で全員合唱された。2011年すみだトリフォニーホールで開催されたコカリナ15周年コンサートを、美智子皇后様ご臨席のもと大成功させる。2010年、2012年とウイーン楽友協会黄金のホールにてコカリナコンサートを開催。約1700名の満席の観客から大喝采を浴びた。

現在は、東日本大震災支援コカリナ&音楽プロジェクトを立ち上げ、全国で支援コンサートを行い、被災地の子どもたちにゆかりの木で製作したコカリナを贈る等の活動を行っている。



やぐち かねみ
矢口 周美 氏 (うた)

和歌山県新宮市出身。現在、コカリナ奏者黒坂黒太郎氏のコンサートにボーカルとハーブ奏者として参加。その甘い歌声はコカリナの音色と調和し、多くのファンを生んでいる。1999年長野コカリナ合奏団アメリカ公演で共演。「一本の樹」をうたい、アメリカのマスコミでも高い評価を受ける。2008年ウイーン・コンチェルトハウス、2010年、2012年とウイーン楽友協会コカリナコンサートで歌い、ウイーンの聴衆から絶賛される。

2010年CD「ありがとう」、2011年CD「里歌」をキングレコードよりリリース。東日本大震災後は黒坂黒太郎氏とともに支援コンサートを展開している。

